

10月5日(月曜日)「主を恥じないで」

【新改訳 2017】

ルカ 9.18-27

「もしだれでも、わたしとわたしのことばとを恥と思うなら、人の子も、自分と父と聖なる御使いとの栄光を帯びて来るときには、そのような人のことを恥とします。」(26節)

当時、ユダヤ人たちにとっては、ナザレのイエスをキリスト(メシヤ)と信じ、そのことばに聞き従うことには葛藤がありました。決して名誉なことではなく、「恥と思う」気持ちがあったようです。

「恥」は日本文化の特徴と言われます。中国の家の教会の信徒たちの殉教を耳にしますが、私たちは、クリスチャンであることを人には隠しておきたいと思うことがあるのではないのでしょうか。それは、一種の恥意識の現れかもしれません。

クリスチャンぶる必要はありませんが、ありのままに、自分の救い主としてのイエスとそのおことば(聖書)を誇り、感謝し、あるいは証ししたいと思います。

使徒パウロは、「私は福音を恥とは思いません。福音は……

神の力です」と宣言しています(ローマ 1・16)。

～祈り～

主よ。あなたとあなたのことばを恥と思うようなことがありませんように。パウロのように、あなたと福音を誇れるようにならせてください。

【学びのために】

一般に日本人には、みんなと違うことをすることは恥ずかしいという思いがあります。そのため、個性や独創性が発揮されない傾向があります。しかしそれは克服しなければなりません。クリスチャンは少数派ですが、日本の教育や文化の中での影響、貢献は、決して小さくはありません。